

事業評価（案）

評価時点：事後評価

計画名称：社会資本整備総合交付金事業

地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で
快適なまちづくり（第2期）

《都市局まちづくり推進部市街地整備課》

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

(1) 概要									
計画(事業)の名称		地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で快適なまちづくり (第2期)							
計画(事業)の期間		平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)							
計画の目標		市の将来像である集約・ネットワーク型都市構造の実現に向け、都心・副都心部では市街地再開発事業等による商業・業務・居住の複合的な都市機能の向上や、事業に併せた公共施設整備を推進し、安全・快適で活力のある、多様な都市活動や市民生活の拠点にふさわしい市街地形成を目指す。また、周辺市街地では無秩序な市街化を抑制し、公共施設の整備・改善による安全で良好な住環境の形成を図るなど、地域特性に合わせて市街地機能の向上を目指す。							
計画の成果目標 (定量的指標)		<p>【1. 狭あい道路解消率】 都市基盤の整備により狭あい道路等の解消を推進し、H26末を基準とした地区内狭あい道路の割合を100%(H26末)から57.1%(H31末)まで改善する。</p> <p>【2. 地区内人口】 良好な市街地の形成により、対象事業区域内の人口を4,538人(H26末)から、7,497人(H31末)まで増加させる。</p> <p>【3. まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合】 良好な市街地の形成により、まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合を54.7%(H26末)から、59.1%(H31末)まで増加させる。</p> <p>【4. 地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合】 良好な市街地の形成により、地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合を41.5%(H26末)から、48.6%(H31末)まで増加させる。</p>							
定量的指標 の定義及び 算定式		定量的指標の現況値及び目標値							
				当初現況値		中間目標値		最終目標値	
				(平成27年度当初)		(平成29年度末)		(平成31年度末)	
		指標①	【1. 狭あい道路解消率】 土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内での平成26年度末時点の幅員4m未満道路の総延長を基準(100%)として、計画期間内での解消度合いを図上で計測する。	100.0%	73.0%	57.1%			
		指標②	【2. 地区内人口】 土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内の総人口を計測する。	4,538人	6,361人	7,497人			
指標③	【3. まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合】 さいたま市総合振興計画で実施するアンケート調査より計測する。	54.7%	57.3%	59.1%					
指標④	【4. 地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合】 さいたま市総合振興計画で実施するアンケート調査より計測する	41.5%	45.8%	48.6%					
全体事業費	合計(A+B+C)	10,798 (百万円)	A	10,798 (百万円)	B	(百万円)	C	(百万円)	

(2) 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・要素事業が、権利者交渉難航等の影響により遅延したことで、狭あい道路の解消が進まず、目標に届かなかった。 ・事業の完了地区3地区（武蔵浦和駅第1街区、武蔵浦和駅第3街区、内谷・会ノ谷地区）を含む市街地開発事業の事業が進捗したことで、整備された住居施設への居住の推進が図られ、地区内人口が増加した。 ・土地区画整理事業と市街地再開発事業の完了地区及び、土地区画整理事業の進捗により、緑や開放的な空間が確保され、良好で快適な生活環境の形成が図られるとともに、地域の特性を生かしたまちづくりが進められたが、市民意識調査結果へ整備の影響が大きく反映されるまでには至らなかった。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	57.1%	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・完了地区（内谷・会ノ谷特定土地区画整理事業）以外の地区については、権利者交渉難航等の影響により、事業が遅延したことで、狭あい道路の解消が進まず、最終目標値を下回る結果となった。
		最終実績値	71.3%		
	指標②	最終目標値	7,497人	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業の事業完了（武蔵浦和駅第1街区、武蔵浦和駅第3街区）と、土地区画整理事業の居住環境整備が進んだことにより、目標値を上回る結果となった。
		最終実績値	8,721人		
	指標③	最終目標値	59.1%	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業や土地区画整理事業の整備効果により緑や開放的な空間が確保されたことが、市民に認知してもらえた結果、最終目標値を上回る結果となった。
		最終実績値	59.3%		
	指標④	最終目標値	48.6%	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地開発事業（市街地再開発事業、土地区画整理事業）が整備計画期間内に3地区完了することができたが、事業完了による効果を事業地区周辺以外の、市全域の市民に認知してもらうまでには至らず、最終目標値を下回る結果となった。
		最終実績値	47.3%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> ・各事業において、緑や開放的な空間を確保することにより、市街地内の良好な生活環境を形成し、ゆとりのある市街地空間を創出した。 ・土地区画整理事業地区内の道路整備により、事業地区内のアクセス性向上と車両の安全性向上、居住環境の向上が図られた。 ・武蔵浦和駅第1街区第一種市街地再開発事業（B3-1棟）、武蔵浦和駅第3街区第一種市街地再開発事業の事業完了により、土地の高度利用化と利便施設の集積、高質な市街地形成が図られることで賑わいの創出がされた。 			

(3) 今後の方針

・狭あい道路解消率は、事業進捗の遅延により目標に届かなかったが、狭あい道路の解消は、地区内アクセスの向上と良好な居住環境の形成を図るだけでなく、道路利用者の安全確保にとっても重要な整備となることから、引き続き事業完了に向け事業の推進を図っていく。

・市民意識調査、「まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活が出来ていると感じる市民の割合」は、市街地開発事業の進捗により、緑や開放的な空間が確保されたことで、目標を達成することができた。「地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合」は、市街地開発事業の事業完了による影響を市全体に広く認識してもらうことができず、目標に届かなかったが、市街地開発事業による緑や開放的な空間の確保や地域の特性を生かしたまちづくりは、生活環境の向上や居住の促進に寄与することから、引き続き市街地開発事業の推進を図り、市民意識調査も含め、評価の向上に努めていく。

・本整備計画の要素事業による効果は、事業の進捗に遅れはあったものの、定量的指標と定量的指標以外において効果発現を確認することができたと考える。継続する要素事業は、他の計画に移行し、引き続き街区整備及び道路整備を推進することで、更なる基盤事業の推進と市街地機能の向上に取り組んでいく。

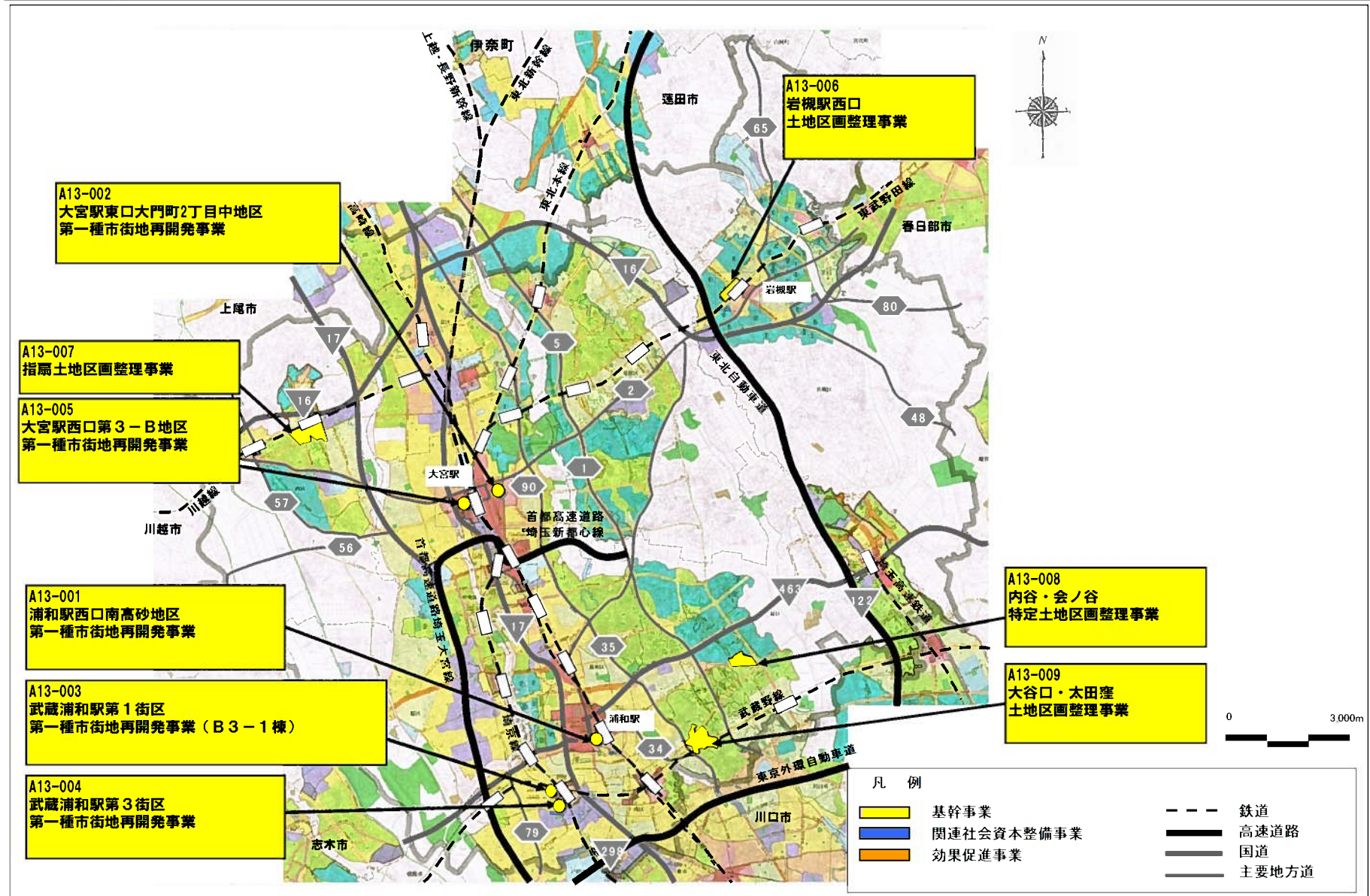
(様式2)

(4) 交付対象事業の詳細										
A 基幹事業										
番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業種別	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)	備考
				H27	H28	H29	H30	H31		
1	浦和駅西口南高砂地区 第一種市街地再開発事業	市街地	再開発A=1.8ha		■				68	
2	大宮駅東口大門町2丁目中地区第 一種市街地再開発事業	市街地	再開発A=1.4ha	■	■				438	
3	武蔵浦和駅第1街区第一種市街地 再開発事業 (B 3-1棟)	市街地	再開発A=3.0ha (A=0.23ha)	■	■				1,904	
4	武蔵浦和駅第3街区 第一種市街地再開発事業	市街地	再開発A=2.6ha	■					4,064	
5	大宮駅西口第3-B地区 第一種市街地再開発事業	市街地	再開発A=1.3ha	■	■				597	
6	岩槻駅西口土地区画整理事業	市街地	都市再生区画A=11.6ha	■	■	■	■	■	1,470	
7	指扇土地区画整理事業	市街地	都市再生区画A=29.9ha				■	■	766	
8	内谷・会ノ谷特定 土地区画整理事業	市街地	都市再生区画A=13.5ha	■	■	■	■	■	291	
9	大谷口・太田窪 土地区画整理事業	市街地	都市再生区画A=28.2ha		■	■	■	■	1,200	
合計								10,798		
B 関連社会資本整備事業										
1										
2										
3										
合計										
C 効果促進事業										
1										
2										
3										
合計										

担当部局	都市局 まちづくり推進部 市街地整備課 TEL : 048-829-1466 FAX : 048-829-1976 E-mail : shigaichi-seibi@city.saitama.lg.jp
-------------	--

参考図面

計画の名称	地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で快適なまちづくり（第2期）		
計画の期間	平成27年度 ～ 平成31年度	交付対象	さいたま市



社会資本総合整備計画 事後評価説明資料

地域特性に合わせて市街地機能を高める、
安全で快適なまちづくり(第2期)

令和2年11月
都市局 まちづくり推進部 市街地整備課

目 次

I 計画の概要	2
II 指標の設定	9
III 要素事業の成果	18
IV 事後評価	28

I . 計画の概要

社会資本総合整備計画について

【社会資本整備総合交付金の概要】

- 社会資本整備総合交付金は、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金等を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として平成22年度に創設。
- 社会資本整備総合交付金は、道路、港湾、治水、下水道、海岸、都市公園、市街地整備、住環境整備等といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画に基づき、目標実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備やソフト事業を総合的・一体的に支援する制度。
- 社会資本総合整備計画を作成したときは、交付期間の終了時に、社会資本総合整備計画の目標の実現状況等について評価を行い、これをインターネットの利用により公表するとともに、国土交通大臣への報告が必要。

1 計画の概要

計画の名称	地域特性に合わせて市街地機能を高める、安全で快適なまちづくり(第2期)
計画の期間	平成27年度～平成31年度(5年間)
計画の目標	<p>市の将来像である集約・ネットワーク型都市構造の実現に向け、都心・副都心部では市街地再開発事業等による商業・業務・居住の複合的な都市機能の向上や、事業に併せた公共施設整備を推進し、安全・快適で活力のある、多様な都市活動や市民生活の拠点にふさわしい市街地形成を目指す。</p> <p>また、周辺市街地では無秩序な市街化を抑制し、公共施設の整備・改善による安全で良好な住環境の形成を図るなど、地域特性に合わせた市街地機能の向上を目指す。</p>
全体事業費	10,798百万円
計画変更の概要	第1回変更 事業期間、事業費の変更 第2回変更 要素事業削除、削除に伴う定量的指標の修正 第3回変更 費用便益比の追記

1 計画の概要

計画の成果目標 (定量的指標)

【1.狭あい道路解消率】

土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内での平成26年度末時点の幅員4m未満道路の総延長を基準(100%)として、計画期間内での解消度合いを図上で計測する。

$$\text{(狭あい道路解消率)} = \frac{\Sigma(\text{4m未満道路解消延長})}{\Sigma(\text{地区内4m未満道路延長})}$$

【2.地区内人口】

良好な市街地の形成により、対象事業区域内の人口を4,538人(H26末)から、7,497人(H31末)まで増加させる。

土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内の総人口を計測する。

1 計画の概要

計画の成果目標 (定量的指標)

【3.まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、
快適な生活が出来ていると感じる市民の割合】

良好な市街地の形成により、まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、
快適な生活が出来ていると感じる市民の割合を54.7%(H26末)から、
59.1%(H31末)まで増加させる。

さいたま市総合振興計画で実施するアンケート調査より計測する。

【4.地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合】

良好な市街地の形成により、地域の特性を生かしたまちづくりがされてい
ると感じる市民の割合を41.5%(H26末)から、48.6%(H31末)まで増加させる。

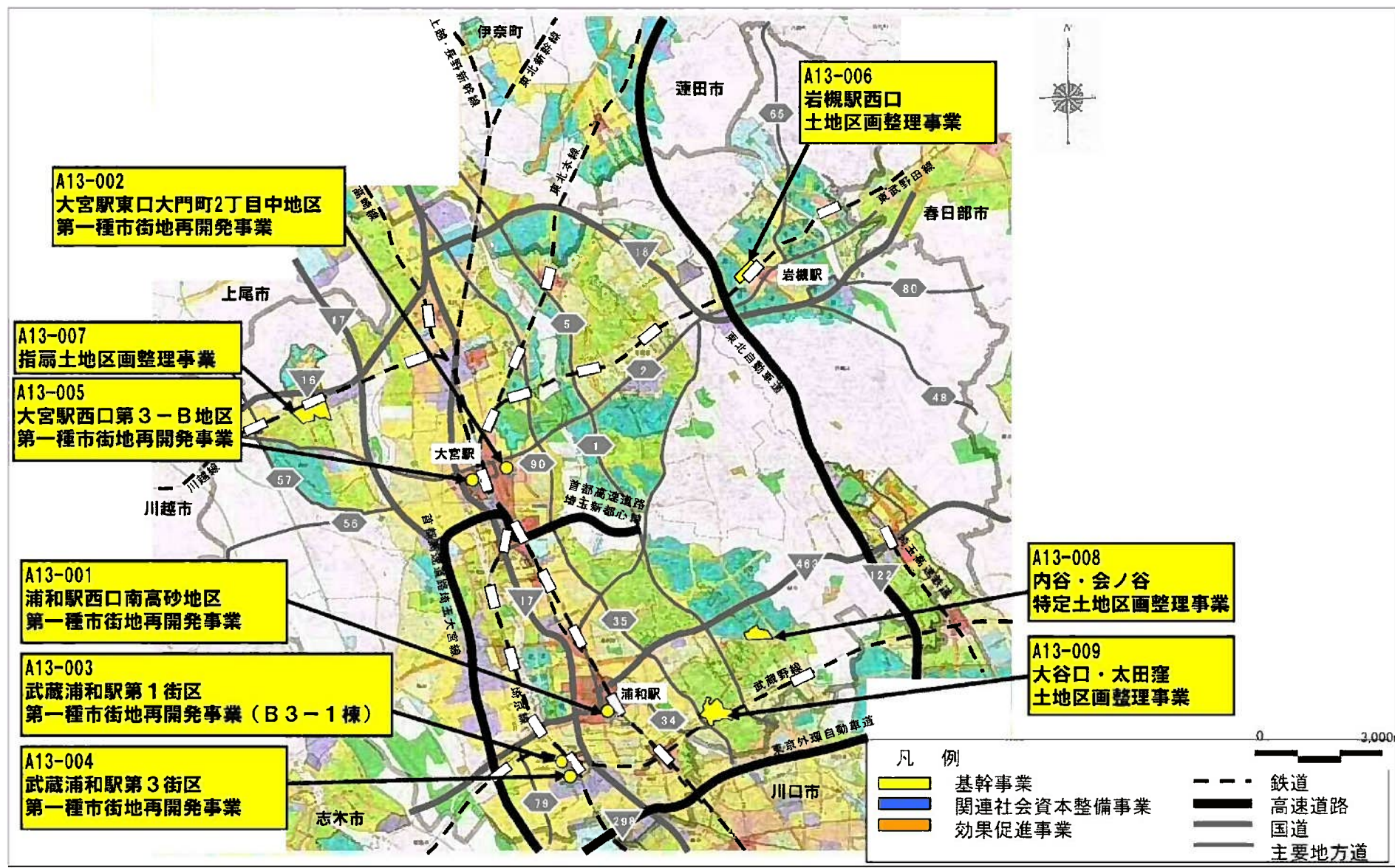
さいたま市総合振興計画で実施するアンケート調査より計測する。

1 計画の概要

事業箇所の一覧

番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)
			H27	H28	H29	H30	H31	
1	浦和駅西口南高砂地区 第一種市街地再開発事業	再開発A=1.8ha						68
2	大宮駅東口大門町2丁目中地区 第一種市街地再開発事業	再開発A=1.4ha						438
3	武蔵浦和駅第1街区第一種市街地再開発事業(B3-1棟)	再開発A=3.0ha (A=0.23ha)						1,904
4	武蔵浦和駅第3街区 第一種市街地再開発事業	再開発A=2.6ha						4,064
5	大宮駅西口第3-B地区 第一種市街地再開発事業	再開発A=1.3ha						597
6	岩槻駅西口土地区画整理事業	都市再生区画A=11.6ha						1,470
7	指扇土地区画整理事業	都市再生区画A=29.9ha						766
8	内谷・会ノ谷特定 土地区画整理事業	都市再生区画A=13.5ha						291
9	大谷口・太田窪 土地区画整理事業	都市再生区画A=28.2ha						1,200

1 計画の概要



Ⅱ. 指標の設定

2 指標の設定

1.狭あい道路解消率

① 定義

土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内での平成26年度末時点の幅員4m未満道路の総延長を基準(100%)として、計画期間内での解消度合いを図上で計測する。

(狭あい道路解消率) = Σ (4m未満道路解消後の残り延長) / Σ (地区内4m未満道路延長)

② 目標値

●各地区の狭あい道路削減目標

表中のH27当初従前値は、H31までの整備予定箇所とH32以降の廃道予定箇所を合計した値、H31末目標値は、H32以降の廃道予定箇所の値である。

現況値 (H27当初)	中間目標 (H29末)	最終目標 (H31末)
100.0%	73.0%	57.1%

2 指標の設定

③ 指標設定のフロー

● 指標設定の考え方

庁内資料を基に、幅員4m未満道路のうち、平成27年度から平成31年度までに廃道が予定されている箇所、平成32年度以降に廃道が予定されている箇所を図上計測し、幅員4m未満道路の解消度合いを計測した。

以下に各地区の狭あい道路削減目標のH27従前値(H26末)とH31末目標値を示す。

※大宮駅東口大門町2丁目中地区・武蔵浦和第1・3街区には狭あい道路がないため、指標計測から除外

表 各地区の狭あい道路削減目標

	狭あい道路の残り延長		
	H27従前値	H29末時点	H31末時点
浦和駅西口南高砂地区	286.8m	0.0m	0.0m
大宮駅西口第3-B地区	338.2m	0.0m	0.0m
岩槻駅西口地区	860.9m	523.4m	0.0m
指扇地区	5089.0m	4095.8m	3318.9m
大間木水深地区	0.0m	0.0m	0.0m
内谷・会ノ谷地区	306.1m	0.0m	0.0m
大谷口・太田窪地区	3592.7m	3028.7m	2659.8m
合計	10473.7m	7647.9m	5978.7m
	狭あい道路の割合		
↓	H27従前値 10473.7/10473.7	中間(H29末)目標値 7647.9/10473.7	H31末目標値 5978.7/10473.7
H27を100とした場合	100.0%	73.0%	57.1%

2 指標の設定

2.地区内人口

①定義

土地区画整理事業、市街地再開発事業区域内の総人口を計測する。

②目標値

現況値 (H27当初)	中間目標 (H29末)	最終目標 (H31末)
4,538人	6,361人	7,497人

③指標設定のフロー

土地区画整理事業区域については、近年の傾向と今後の事業進捗を踏まえ、人口増加の目標値を算定する。市街地再開発事業区域については、マンション整備を含む事業について、予定戸数と完成時期を考慮し、入居による人口増加の目標値を設定する。

2 指標の設定

●指標設定

それぞれの地区の状況を鑑みて、合計すると以下の表の通りになる。

表 各地区の5年の人口推計結果（人）

	H27.3 (従前)	H28.3	H29.3	H30.3 (中間)	H31.3	H32.3 (最終)
浦和駅西口 南高砂地区	84	84	0	0	925	925
大宮駅東口 大門町2丁目中地区	12	12	12	0	0	0
武蔵浦和駅第1街区	0	0	0	292	292	292
武蔵浦和駅第3街区	0	0	1,370	1,370	1,370	1,370
大宮駅西口 第3-B地区	61	61	61	0	0	0
岩槻駅西口地区	803	803	803	803	803	803
指扇地区	1,335	1,381	1,426	1,472	1,517	1,563
内谷・会ノ谷地区	641	701	761	822	882	942
大谷口・太田窪地区	1,602	1,602	1,602	1,602	1,602	1,602
合計	4,538	4,644	6,035	6,361	7,391	7,497



図 各地区の5年の人口推計結果

資料：庁内資料

2 指標の設定

3. まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合

① 定義

「まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができているか」という問いに対して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた市民の割合。

② 目標値

今後5年間の満足度の推移目標

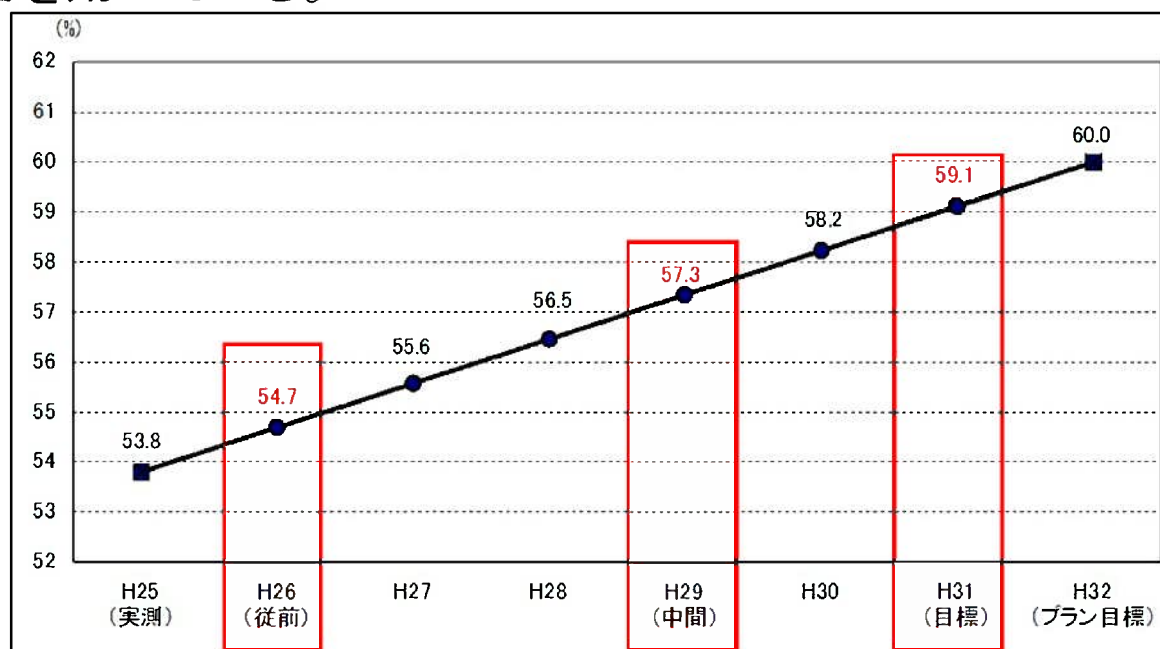
現況値 (H27当初)	中間目標 (H29末)	最終目標 (H31末)
54.7%	57.3%	59.1%

2 指標の設定

③ 指標設定のフロー

「2020さいたま希望のまちプラン 総合振興計画(基本構想・後期基本計画)」の210頁に掲載された指標(実測値(平成25年度)と目標値(平成32年度))から、事業着手前の従前値(平成26年度末＝平成27年度当初)と、事業完了後(平成31年度末)の見込み値を直線式を用いて算定する。

※実測値(平成25年度)は、「平成25年度さいたま市総合振興計画(後期基本計画)に係るアンケート調査(市企画調整課)」において、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた市民の割合を用いている。



2 指標の設定

4. 地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合

① 定義

「地域の特性を生かしたまちづくりがされているか」という問いに対して、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた市民の割合。

② 目標値

今後5年間の満足度の推移目標

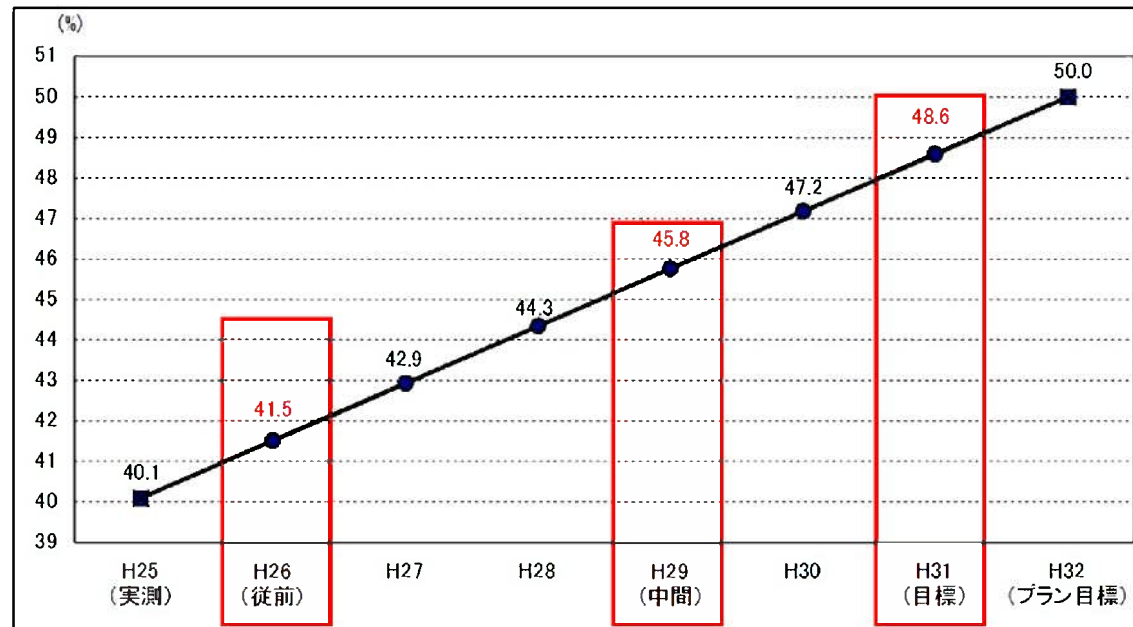
現況値 (H27当初)	中間目標 (H29末)	最終目標 (H31末)
41.5%	45.8%	48.6%

2 指標の設定

③ 指標設定のフロー

「2020さいたま希望のまちプラン 総合振興計画(基本構想・後期基本計画)」の210頁に掲載された指標(実測値(平成25年度)と目標値(平成32年度))から、事業着手前の従前値(平成26年度末＝平成27年度当初)と、事業完了後(平成31年度末)の見込み値を直線式を用いて算定する。

※実測値(平成25年度)は、「平成25年度さいたま市総合振興計画(後期基本計画)に係るアンケート調査(市企画調整課)」において、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた市民の割合を用いている。



Ⅲ. 要素事業の成果

浦和駅西口南高砂地区第一種市街地再開発事業 再開発A=1.8ha



浦和駅西口南高砂地区
第一種市街地再開発事業



施行前



施行後(イメージパース)

主な事業 従前従後土地評価、権利変換計画
全体事業費 68,000千円
実施事業費 67,080千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 98.6 %

●整備計画内の事業完了
事業全体は未完了であるため、他の整備計画にて事業を継続。

大宮駅東口大門町2丁目中地区第一種市街地再開発事業 再開発A=1.4ha



大宮駅東口大門町2丁目中地区
第一種市街地再開発事業

主な事業 建築物設計、従前従後評価、
権利変換計画

全体事業費438,000千円

実施事業費437,160千円

事業進捗率(整備計画完了時点)99.8 %

- 整備計画内の事業完了
事業全体は未完了であるため、他の整備計画
にて事業を継続。



施行前



施行後(イメージパース)

武蔵浦和駅第1街区第一種市街地再開発事業(B3-1棟) 再開発A=3.0ha(A=0.23ha)



主な事業 施設建築物新築工事
 全体事業費 1,904,000千円
 実施事業費 1,903,800千円
 事業進捗率(整備計画完了時点) 100%

●平成28年度事業完了

武蔵浦和駅第1街区 第一種市街地再開発事業



事業実施前の写真

事業実施前(平成15年度)



事業実施後の写真

事業実施後(平成29年度)

撮影方向①



事業実施前の写真

事業実施前(平成15年度)



事業実施後の写真

事業実施後(平成29年度)

撮影方向②

武蔵浦和駅第3街区第一種市街地再開発事業 再開発A=2.6ha



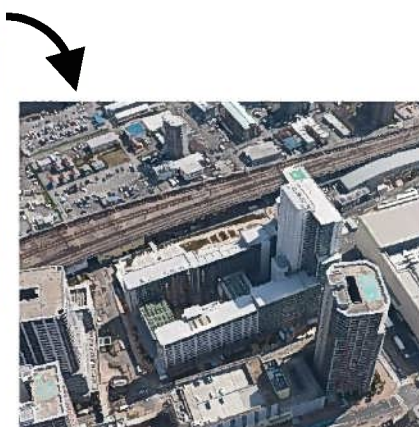
主な事業 施設建築物新築工事
全体事業費 4,064,000千円
実施事業費 4,063,830千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 100 %

●平成29年度事業完了

武蔵浦和駅第3街区 第一種市街地再開発事業



施行前



施行後

撮影方向①



施行前



施行後

撮影方向②

大宮駅西口第3-B地区第一種市街地再開発事業 再開発A=1.3ha



大宮駅西口第3-B地区
第一種市街地再開発事業

主な事業 建築物設計、従前従後評価、
権利変換計画
全体事業費 597,000千円
実施事業費 596,001千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 99.8 %

- 整備計画内の事業完了。
事業全体は未完了であるため、他の整備
計画にて事業を継続。



施行前



施行後(イメージパース)

岩槻駅西口土地区画整理事業 都市再生区画A=11.6ha

岩槻駅西口土地区画整理事業



主な事業 物件移転補償、道路築造工事
全体事業費 1,470,000千円
実施事業費 750,000千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 51 %

●他の整備計画にて事業継続。

岩槻駅西口土地区画整理事業

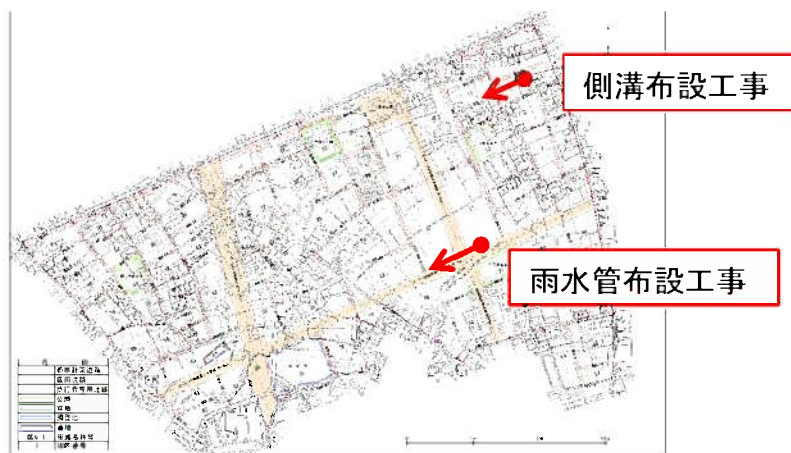


施行前



施行後

指扇土地区画整理事業 都市再生区画A=29.9ha



主な事業 雨水管布設工事、道路築造工事
全体事業費 766,000千円
実施事業費 356,456千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 46.5 %

●他の整備計画にて事業継続。

指扇土地区画整理事業



雨水管布設工事(施行状況)



側溝布設工事(完成)

内谷・会ノ谷特定土地区画整理事業 都市再生区画A=13.5ha



内谷・会ノ谷特定土地区画整理事業

主な事業 物件移転補償、道路築造工事
全体事業費 291,000千円
実施事業費 201,000千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 69.1%

●事業完了



施行前



撮影方向①

施行後



施行前



撮影方向②

施行後

大谷口・太田窪土地地区画整理事業 都市再生区画A=28.2ha



大谷口・太田窪土地地区画整理事業

主な事業 物件移転補償、道路築造工事
全体事業費 1,200,000千円
実施事業費 446,880千円
事業進捗率(整備計画完了時点) 37.2 %

●他の整備計画にて事業継続。



施行前



撮影方向①

施行後



施行前



撮影方向②

施行後

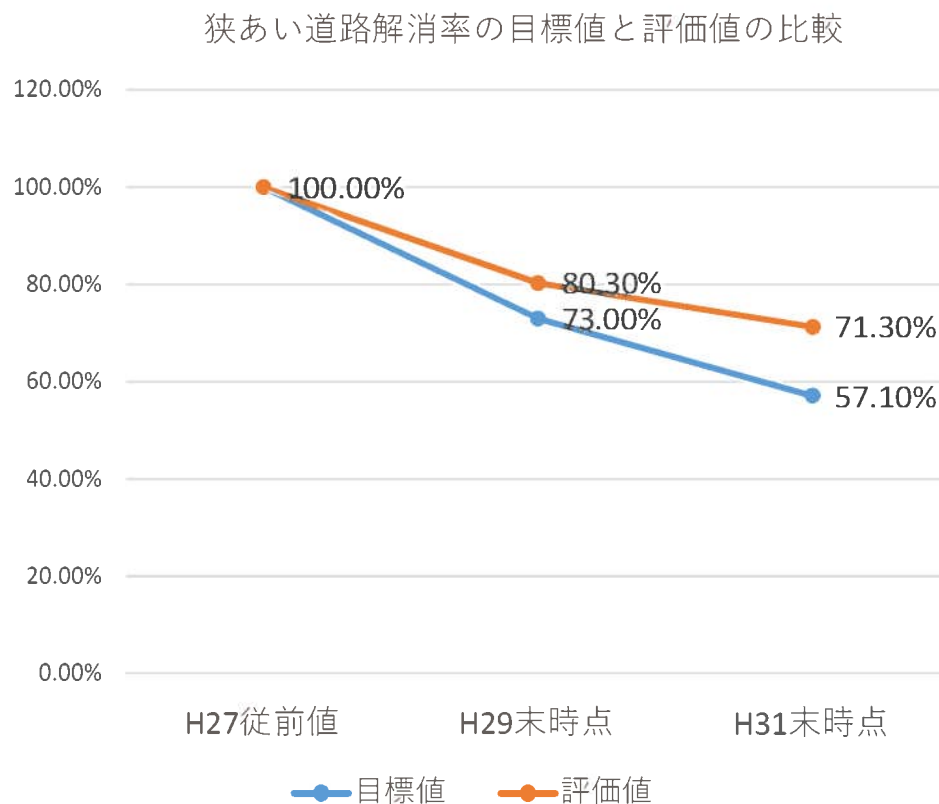
IV. 事後評価

4 事後評価

指標1: 狭あい道路解消率

定量的指標の結果を算出するため、各施行地区の道路整備状況を集計した。
評価値は、**71.3%**となり、目標値**57.1%**を下回る結果となった。

	狭あい道路の残り延長		
	H27従前値	H31末目標値	評価値
浦和駅西口南高砂地区	286.8m	0.0m	286.8m
大宮駅西口第3-B地区	338.2m	0.0m	338.2m
岩槻駅西口地区	860.9m	0.0m	403.9m
指扇地区	5,089.0m	3,318.9m	3,823.2m
内谷・会ノ谷地区	306.1m	0.0m	0.0m
大谷口・太田窪地区	3,592.7m	2,659.8m	2,614.4m
合計	10,473.7m	5,978.7m	7,466.5m
↓	狭あい道路の割合		
	H27従前値	H31末目標値	評価値
	10473.7/10473.7	5978.7/10473.7	7466.5/10473.7
H27を100とした場合	100.0%	57.1%	71.3%



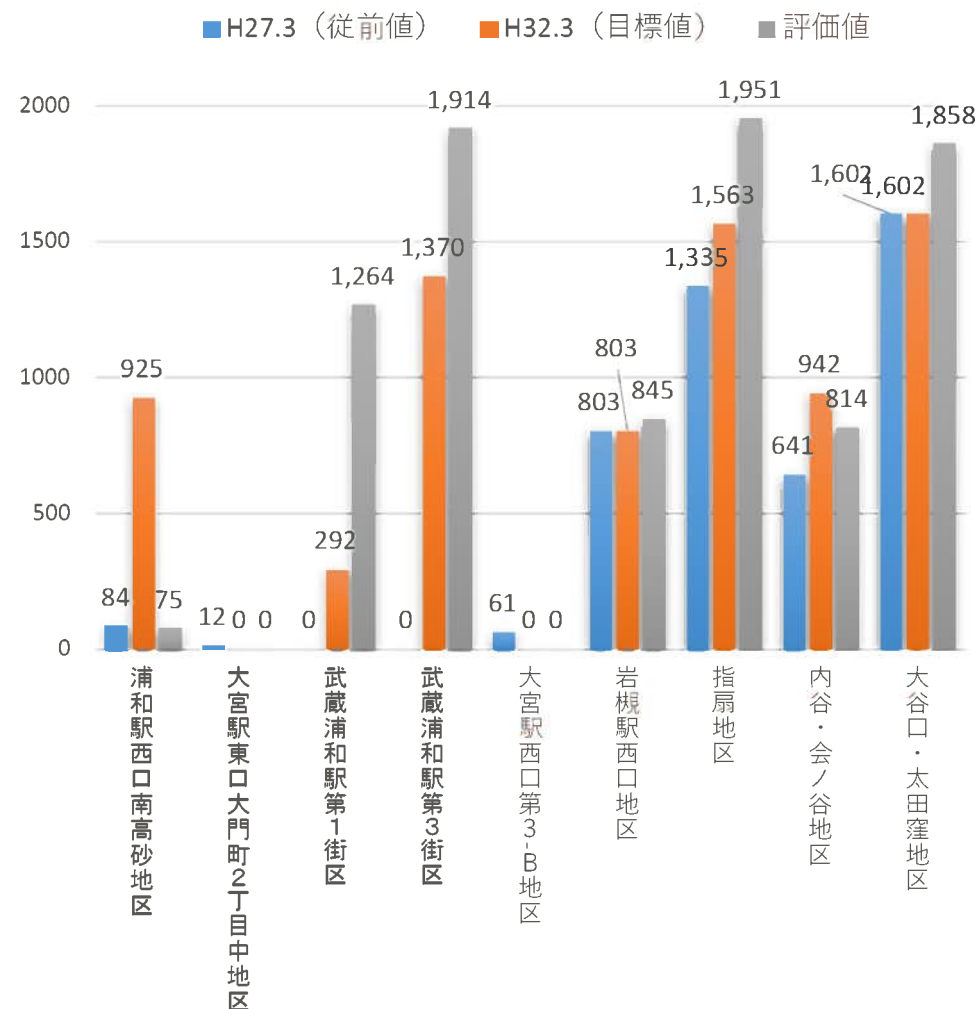
4 事後評価

指標 2：地区内人口

定量的指標の結果を算出するため、各地区の町丁目ごとの人口データを集計した。
評価値は、**8,721人**となり、目標値**7,497人**を上回る結果となった。

■ 指標 2 の従前値、目標値、評価値

地区名	H27.3 (従前値)	H32.3 (目標値)	評価値
浦和駅西口南高砂地区	84人	925人	75人
大宮駅東口大門町2丁目中地区	12人	—	—
武蔵浦和駅第1街区	0人	292人	1,264人
武蔵浦和駅第3街区	0人	1,370人	1,914人
大宮駅西口第3—B地区	61人	—	—
岩槻駅西口地区	803人	803人	845人
指扇地区	1,335人	1,563人	1,951人
内谷・会ノ谷地区	641人	942人	814人
大谷口・太田窪地区	1,602人	1,602人	1,858人
合計	4,538人	7,497人	8,721人



4 事後評価

指標3: まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活が出来ていると感じる市民の割合

さいたま市総合振興計画に係るアンケート調査結果を抽出した。
評価値は、**59.3%**となり、目標値**59.1%**を上回る結果となった。

指標	H27.3 (従前値)	H31.3 (目標値)	評価値
まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活ができていると感じる市民の割合	54.7%	59.1%	59.3%

指標4: 地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合
さいたま市総合振興計画に係るアンケート調査結果を抽出した。
評価値は、**47.3%**となり、目標値**48.6%**を下回る結果となった。

指標	H27.3 (従前値)	H31.3 (目標値)	評価値
地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合	41.5%	48.6%	47.3%

4 事後評価

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

要素事業が、権利者交渉難航等の影響により遅延したことで、狭あい道路の解消が進まず、目標に届かなかった。

事業の完了地区3地区（武蔵浦和駅第1街区、武蔵浦和駅第3街区、内谷・会ノ谷地区）を含む市街地開発事業の事業が進捗したことで、整備された住居施設への居住の推進が図られ、地区内人口が増加した。

土地区画整理事業と市街地再開発事業の完了地区及び、土地区画整理事業の進捗により、緑や開放的な空間が確保され、良好で快適な生活環境の形成が図れるとともに、地域の特性を生かしたまちづくりが進められたが、市民意識調査結果へ整備の影響が大きく反映されるまでには至らなかった。

4 事後評価

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

II 定量的指標の達成状況

	最終目標値	目標値と実績値に差が出た要因
	最終実績値	
指標①	57.1%	完了地区(内谷・会ノ谷特定土地区画整理事業)以外の地区については、権利者交渉難航等の影響により、事業が遅延したことで、狭あい道路の解消が進まず、最終目標値を下回る結果となった。
	71.3%	
指標②	7,497人	市街地再開発事業の事業完了(武蔵浦和駅第1街区、武蔵浦和駅第3街区)と、土地区画整理事業の居住環境整備が進んだことにより、目標値を上回る結果となった。
	8,721人	
指標③	59.1%	市街地再開発事業や土地区画整理事業の整備効果により緑・開放的な空間が確保されたことが、市民に認知してもらえた結果、最終目標値を上回る結果となった。
	59.3%	
指標④	48.6%	市街地開発事業(市街地再開発事業、土地区画整理事業)が整備計画期間内に3地区完了することができたが、事業完了による効果を事業地区周辺以外の、市全域の市民に認知してもらうまでには至らず、最終目標値を下回る結果となった。
	47.3%	

4 事後評価

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

- ・各事業において、緑や開放的な空間を確保することにより、市街地内の良好な生活環境を形成し、ゆとりのある市街地空間を創出した。
- ・土地区画整理事業地区内の道路整備により、事業地区内のアクセス性向上と車両の安全性向上、居住環境の向上が図られた。
- ・武蔵浦和駅第1街区第一種市街地再開発事業(B3-1棟)、武蔵浦和駅第3街区第一種市街地再開発事業の事業完了により、土地の高度利用化と利便施設の集積、高質な市街地形成が図られることで賑わいの創出がされた。

4 事後評価

公共事業評価調書《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

今後の方針

- ・ 狭あい道路解消率は、事業進捗の遅延により目標に届かなかったが、狭あい道路の解消は、地区内アクセスの向上と良好な居住環境の形成を図るだけでなく、道路利用者の安全確保にとっても重要な整備となることから、引き続き事業完了に向け事業の推進を図っていく。
- ・ 市民意識調査、「まちなかに緑や開放的な空間が感じられ、快適な生活が出来ていると感じる市民の割合」は、市街地開発事業の進捗により、緑や開放的な空間が確保されたことで、目標を達成することができた。「地域の特性を生かしたまちづくりがされていると感じる市民の割合」は、市街地開発事業の事業完了による影響を市全体に広く認識してもらうことができず、目標に届かなかったが、市街地開発事業による緑や開放的な空間の確保や地域の特性を生かしたまちづくりは、生活環境の向上や居住の促進に寄与することから、引き続き市街地開発事業の推進を図り、市民意識向上も含め、評価の向上に努めていく。
- ・ 本整備計画の要素事業による効果は、事業の進捗に遅れはあったものの、定量的指標と定量的指標以外において効果発現を確認することができたと考える。継続する要素事業は、他の計画に移行し、引き続き街区整備及び道路整備を推進することで、更なる基盤事業の推進と市街地機能の向上に取り組んでいく。